

巻頭言

『フォーラム人文学』第15号をお届けします。

ご承知のように、本誌『フォーラム人文学』は、文学部・文学研究科教育促進支援機構（以下、支援機構）の活動を会員である教員と学生に向けて報告するとともに、文学部・文学研究科の研究教育活動を紹介する定期刊行物です。支援機構は、文学部創立50周年（2003年度）の一環として設立された組織であり、教員と学生が対等な立場で運営に参画しながら学生自身の主体的な学びを支援するユニークな活動をこれまで展開してきました。

しかしながら、その一方で、組織運営の仕組みや活動内容の在り方等について、さまざまな課題や問題等も次第に明らかにもなってきました。そのため、支援機構は、前年度（2016年度）に組織改革がなされ、新たな体制で運営されることになりました。今年度の『フォーラム人文学』（第15号）は、そうした新たな体制を引き継ぐ形で展開した成果を示す媒体の1つでもあると思います。

さて、今年度、会長として感じたのは、こうした新たな体制の下での運営が、少しずつ軌道に乗ってきたのではないかということです。まず、昨年度の改革の際に改めて確認された支援機構の理念ですが、それは、「授業の中だけにとどまらない学生（学部生+大学院生）の多様な「学び」を支援するために、教員と学生とが対等な立場で関わり、コラボレーション（協働）することを通して、学びと知的探求のコミュニティとしての大学の創出に取り組む」というものでした。本年度も、この理念の下で、教員委員5名と学生委員5名で構成される「運営委員会」が支援機構の中心母体となり、それを支える「サポート委員」が、各教室の教員（運営委員以外）から選出され、支援機構は活動を展開してきました。この運営委員会は、①「教育支援」：学生によるコースガイダンス・新入生歓迎キャンプなど、②「進路支援」：1・2年生向けの進路関連セミナーなど、③「研究支援」：各種助成事業の運営、④「編集」：公式冊子『文学部案内』・『フォーラム人文学』の編集、⑤「広報」：オープンキャンパス・市大授業など、の部門に分かれて活動してきました。また、その際、「教員委員と学生委員は対等な立場で議論し、決定に関与する（民主的な意思決定プロセス）」、「学部・研究科との良好な意思疎通と相互理解の維持」、「一般会員に対して意思決定プロセスを透明化する（運営委員・サポート委員のリスト、プロジェクトリーダー、議事録の公開など）」、ということも念頭に置かれていました。このように、教員及び学生委員の双方が対等な立場で互いに協力し合って取り組むことで、今年度の支援機構の活動がうまく展開されてきたのではないかと感じています。

もちろん、『フォーラム人文学』自体も、昨年度に大きく改変されました。支援機構の活動報告を充実させ、優秀卒論・修論の紹介を支援機構のホームページ（文学部・文学研究科のホームページ内に設置）に公開することは、本年度も受け継いでおります。

とはいえ、まだまだ改善の余地も多くあろうかとも思います。読者の皆さまには、支援機構の活動内容をご覧いただき、教育促進支援機構の一員として、支援機構への一層の支援をお願いしたいと考えております。

文学部・文学研究科教育促進支援機構
2017年度 会長 森 久佳
(教育学専修/教育学コース 教員)